

<高学年>

1. 教材名 ビデオ「地球炎上」「地球凍結」

2. 教材内容

「地球炎上」の内容（30分）

人類最初のアラモードでの核実験の様子、原爆投下後のヒロシマの惨状、その後の核実験の様子を実写フィルムをもとに映像化している。また、NHKが新たに開発した特撮を駆使し、世界の主要都市に1メガトンの核爆弾が投下されたらどうなるかを科学的データにもとづいて想定し、核爆弾の破壊力を伝えている。特に、東京に投下された場合の被害の状況が映像によりかわりやすいものになっている。

「地球凍結」の内容（30分）

被爆者遺族の悲痛な叫び、放射線による人体や植物への影響がわかりやすく描かれている。また、核戦争から約100年まで影響する地球の環境変化を描く。死の灰が全世界に拡散し、長期的に人類や生態系に影響を及ぼすとともに、地球は「ニュークリア・ウィンター」におそわれる。これは大火災によって発生した煙りにより、太陽光線がさえぎられ、大気循環が破壊される結果、地上の平均気温がやく40度低下されるというもの。アメリカのシュナイダー博士が大型コンピュータで予測したデータがコンピュータ画面上の地球を不気味に覆っていく。

3. 授業案

- (1) ねらい 原爆の威力（爆風、熱線、放射線）について調べ、そのおそろしさを知る。
- (2) 展開例（2時間扱い）

学 習 内 容	留 意 点
1. 原爆ドームの写真を見て知っていることを出し合う	・資料①を提示し既習したことを出す 原爆投下日、原爆の威力 原爆の被害など
2. ビデオ「地球炎上、地球凍結」を視聴し、原爆の威力を感じ取る	
3. もし自分たちの町に原爆が投下された場合その被害について考える	・資料②をもとに原爆が自分たちの住んでいる町に投下された場合、爆風、熱線、放射線による被害について考える ・被害の様子がさらにわかるように写真を提示してもよい
4. 学習した感想を出し合い、考えを深める	

※ビデオは各30分であるが、「地球炎上」の後半15分と「地球凍結」の前半15分視聴させても原爆の破壊力を十分に感じ取ることができる。

(3) 資料

資料①「原爆ドームの写真」(県教組大型写真)

資料②原爆の破壊力

	《熱線》	《爆風》
爆心地(原爆がちょうど落とされた地点)	3000～4000度	
爆心地から1kmはなれた所	屋根がわらがとける	170m/秒
爆心地から2kmはなれた所	ゴムがもえる	71m/秒(大型の台風なみ)
爆心地から3kmはなれた所	黒い紙がもえる	31m/秒(大人がふきとばされる)

	《放射線》
爆心地から1kmはなれた所	高い熱がでる。口やはなから多量の血がでる。かみの毛がぬける。一週間ぐらいでほとんどの人が死んでしまう。
1kmから2kmはなれた所	高い熱がでる。毛がぬける。一部の人が死んでしまう。

※ただし、地形により被害の状態は違う

原爆の放射線による被害は、かすりきずひとつしなかった人が、まもなく死んでしまうというおそろしいものです。お母さんのお腹のなかにいる赤ちゃんにもたいへんおそろしいいきょうがあります。また、放射線を直接浴びなかった人も、雨(黒い雨)を浴びると体がだんだんと弱くなり、死んでいく人がたくさんいました。

資料③「もし松任駅に原子爆弾が落とされたら」

松任駅に原爆が落とされた場合を資料②をもとに、子どもたちに書かせる。そのことで自分たちの被害がどのようなものになるかを考えることができる。

